

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサートプロダクト 1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート制作コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	240時間
単位数	8単位	授業形態	実習		
教科書/教材	資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	村上 勝志		実務経験の有無・職種	有：プロデューサー、A&R、マネージャー	
学習目的					
コンサートやイベント現場における制作スタッフを目指す実習。基礎実習ローテーション期間ではすべてのコース(制作・企画・舞台・照明・PA)において最低限必要な制作の基礎知識を学ぶ。コース選択後はコンサートの企画や宣伝、運営、本部など各セクションの仕事を理解し、より実践的な実習を行う。ライブハウス制作実習、片柳記念ホールでのホール実習や修了公演での実習公演を通じて実際にコンサート企画、運営、宣伝、運営や各セクション、アーティスト（マネージメント）とのコミュニケーションを通して制作スタッフとしての基礎的な能力を各自身につける。					
到達目標					
実践的な実習を通して、コンサートの制作スタッフとしてそれぞれの役割を理解し、組織の中で機能できる能力を持つ事を目標とする。1年次に実施するライブハウス制作実習、片柳記念ホールでのホール実習や修了公演を通じて、コンサートの企画やアーティストのブッキング、宣伝プランの作り方や運営の方法、マーケティングを実践する事で制作スタッフとしての基礎的なスキルとコミュニケーション力を身につけ、制作スタッフとして考え行動出来る能力を身につけることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	制作スタッフとしての基礎的なスキルを身につける為に、コンサート・プロモーターの役割や仕事を理解する。また、コンサートに関わるアーティストサイドのマネージメントやレコード会社の役割について理解する。コンサートの実践実習に向けてコンサートの企画やタイムテーブルを理解し、チームの編成と企画書を作成する。ライブハウス制作実習や片柳記念ホールでのホール実習、修了公演を通じて実践的な実習授業を行う。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	10%	グレードテストを定期的に行う		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	80%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基礎実習 ローテーション①		制作と企画の違い・制作コース説明・自己紹介、片柳記念ホールの見学		
2回	基礎実習 ローテーション②		ライブ企画・公演概要書の説明		
3回	基礎実習 ローテーション③		架空イベントの公演概要書作成・出演アーティストの説明		
4回	基礎実習 ローテーション④		イベントに向けて3班での役割分担・公演概要書作成・チケット券面作成・プレスリリース作成・フライヤー作成・タイムテーブル作成・教室レイアウトを考える		
5回	基礎実習 ローテーション⑤		公演概要書作成・チケット券面作成・プレスリリース作成・フライヤー作成・タイムテーブル作成・使用機材の確認・イベントのシュミレーション		
6回	基礎実習グレード試験		照明実習（照明の配線と吊り込みができる）		
7回	基礎実習グレード試験		PA実習（ケーブル巻き・マイクスタンドの扱いができるようになる）		
8回	基礎実習グレード試験		舞台実習（平台・箱馬を使ってドラム台の製作ができる）		
9回	コース別実習開始 コンサートプロモーターを理解する。		コンサート・プロモーターの役割や仕事の仕組みが理解できる		
10回	プロダクション・レコード会社の理解		プロダクション・レコード会社の役割と所属アーティストが理解できる		
11回	プロモーションの理解		主要な媒体の種類・名称・プロモーションを方法が理解できる		
12回	タイムテーブルの理解		コンサートのタイムテーブルが理解できる		
13回	ライブハウス制作実習 制作準備		ライブハウスイベントに向けてのチーム編成と企画書を作成する		
14回	ライブハウス制作実習 制作準備		ライブハウスイベントの出演アーティストを選出しブッキングを開始する		
15回	ライブハウス制作実習 制作準備		ライブハウスイベントの宣伝と運営のプランニングを行い理解する		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサートプロダクト 1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサートPAコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	240時間
単位数	8単位	授業形態	実習		
教科書/教材	資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	床鍋 隆		実務経験の有無・職種	無	
学習目的					
コンサートやイベント現場におけるPAスタッフを目指す実習。基礎実習ローテーション期間ではすべてのコース(制作・企画・舞台・照明・PA)において最低限必要なPAの基礎知識を学ぶ。コース選択後はより実践的にPA機材のしくみ・使い方を習得し簡単なPAシステムのプランニングから設置・オペレートまでができることを目的とする。PAコースに限らず、ホール・ステージでの安全管理も身につけるようにする。					
到達目標					
基礎実習ローテーション期間中は、ケーブル・コネクタの種類や名称などを知り、PAの基本的な配線ができるようになる。基本的にはフェーダー操作を覚え、簡単な台本に沿ったミキシング操作ができるようになる。コース選択後はアナログコンソールの詳しい仕組みとエフェクターを学び、カラオケミキシングができるようになる。最終目標は2バンドのステージ転換とスピーカーチューニング・ミキシングができるようになる。					
教育方法等					
授業概要	基礎実習ローテーション期間中は基本的な音響機材の仕込み作業(コネクタの種類や名称、ケーブル巻、機材の配置配線、音量操作など)を学びます。コース選択後はコンサートPAスタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、より詳しくアナログコンソールのしくみや各音響機器の設置配線やミキシング操作を片柳記念ホールで行います。				
注意点	授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しない。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨する。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消できるようにする。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	10%	グレードテストを定期的に行う		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	80%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基礎実習 ローターション①		コネクタの名称とケーブル巻き、機材の取り扱いが理解できる		
2回	基礎実習 ローターション②		マイクスタンドの取り扱いと機器の接続ができ、音が出せるようになる		
3回	基礎実習 ローターション③		マルチケーブルとジャンクションボックスの取り扱いと、フェーダー操作ができるようになる		
4回	基礎実習 ローターション④		台本に沿ってマイクロホンと音楽のバランスをとることができるようになる		
5回	基礎実習 ローターション⑤		大規模音響システムを使ってミキシング体験ができる		
6回	基礎実習グレード試験		照明実習（照明の配線と吊り込みができる）		
7回	基礎実習グレード試験		PA実習（ケーブル巻き・マイクスタンドの扱いができるようになる）		
8回	基礎実習グレード試験		舞台実習（平台・箱馬を使ってドラム台の製作ができる）		
9回	コース別実習開始 基本的なPA機材の理解①		ミキシングコンソール インプットモジュール～ステレオアウトの仕組みが理解できる		
10回	基本的なPA機材の理解②		ミキシングコンソール グループマスターモジュールの仕組みが理解できる		
11回	基本的なPA機材の理解③		ミキシングコンソール AUX回路・MTR回路の仕組みが理解できる		
12回	基本的なPA機材の理解④		PAスピーカーの仕組みと音出しが理解できる		
13回	基本的なPA機材の理解⑤		ミキシングコンソール 音量、音質の設定ができる		
14回	イベント①(ボーカルチャレンジ①)		カラオケ・ボーカルミキシングのセッティング・リハーサルができる		
15回	イベント②(ボーカルチャレンジ②)		カラオケ・ボーカルミキシングの本番ができる		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサートプロダクト 1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート照明コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	240時間
単位数	8単位	授業形態	実習		
教科書/教材	舞台・テレビジョン照明＜基礎編＞(日本照明家協会出版)、 現場で役立つ舞台関係用語集 ステージ・PA・照明用語事典(リットーミュージック)				
担当教員情報					
担当教員	田村・坂田・加藤		実務経験の有無・職種	有・舞台照明	
学習目的					
音楽業界だけでなく、エンターテインメントに必要な照明として、最低限必要な舞台照明の技術・知識を身につける。社会人として、必要なコミュニケーションも指導していく。また、照明では高所に機材を設置する為、作業においての安全も理解する。1人で出来る仕事ではない為、協力し助け合い切磋琢磨が必要である。より良いコンサートやイベントにする為に、重要性を理解し意思疎通ができる事を目的とする。					
到達目標					
・安全に対する心構えとして、コミュニケーションの必要性を理解する。 ・各種灯体の効果・特徴を理解し、電気回路の基礎を身につける。 ・調光卓の機能、舞台照明の規格の一つであるDMX512規格概要を理解する。 ・舞台照明は一人で出来る作業ではない為、実習を通じて、他人とのコミュニケーションを身につける。					
教育方法等					
授業概要	基礎実習ローテーション期間中は、舞台照明とは何であるか、舞台照明の効果、照明設備の名称と役割、照明スタッフの仕事の内容など舞台照明に関する基本的なことを学ぶ。コース選択後は、コンサート照明スタッフとしてより専門的な知識の理解をはじめ、仕込み図の理解、照明オペレーターの理解とライブ実習を通じて実際に照明オペレーターを行う。				
注意点	失敗する事が問題ではなく、分からない事をそのままにしておく事が問題の為、自ら積極的に授業に参加しコミュニケーションも重視する。厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。(遅刻・欠席の場合、授業開始15分前までに必ず教員室に連絡を入れる事。)ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	小テスト	0%			
	レポート	10%	宿題や見学のレポートなどを真剣に取り組んでいるか、提出状況によって評価する。		
	成果発表 (口頭・実技)	20%			
	平常点	60%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基礎実習①		ホールの設備の説明、照明の仕事の一日の流れについて理解する。		
2回	基礎実習②		様々な照明機材の機能・特徴を理解する。		
3回	基礎実習③		PARライトなどを使った仕込図をもとに、仕込・シュートを行う。		
4回	基礎実習④		ピンスポットオペレーターについて理解する。		
5回	基礎実習⑤		調光卓オペレーターの流れを理解する。		
6回	基礎実習グレード試験		〔舞台〕箱馬、平台を使ってドラム台の作製が出来る。		
7回	基礎実習グレード試験		〔PA〕ケーブル巻きが出来る。		
8回	基礎実習グレード試験		〔照明〕吊り込み、回路取りが出来る。		
9回	基礎実習の復習①		仕込・シュートを身につける。		
10回	基礎実習の復習②		仕込・シュートを身につける。		
11回	仕込み図の見方について		仕込み図の見方を理解する。		
12回	楽曲の聴き方		楽曲の譜割・カウントを理解する。		
13回	オペレーターについて		楽曲に合わせて、照明のオペレーターを理解する。		
14回	イベント①(Voチャレンジ本番①)		コンサートにおけるテクニカルスタッフとしての全体の流れとオペレーターを理解する。		
15回	イベント①(Voチャレンジ本番②)		コンサートにおけるテクニカルスタッフとしての全体の流れとオペレーターを理解する。		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	コンサートプロダクト 1	
科目基礎情報							
開設学科	コンサート・イベント科		コース名	コンサート舞台コース		開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	240時間
単位数	8 単位		授業形態	実習			
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	田城 佳子			実務経験の有無・職種	無		
学習目的							
コンサートやイベントにおける舞台スタッフを目指す実習。基礎ローテーション期間ではすべてのコース（制作・企画・舞台・照明・PA）において最低限必要な基礎知識を学ぶ。コース選択後はより実践的に舞台スタッフの仕事の理解や知識を深め、実習ライブでは舞台進行やローディーを実践し舞台スタッフとしてのスタッフワークができることを目的とする。また、ホール・ステージでの安全管理も身につけるようにする。							
到達目標							
●舞台の名称、用語を理解できる。●各セクションの流れを理解し、タイムテーブルの作成、図面作成、進行表の作成ができる。 ●舞台を安全に進行する。●ドラムセットのセティングができる。●楽器の基礎知識を習得し、各種アンプの種類、名称が理解できる。 ●イントレの名称、組み方を理解し安全に組める様になる。●箱馬、平台を使って山台の作製ができる。							
教育方法等							
授業概要	基礎実習ローテーション期間中は基本的な舞台の役割を理解し舞台機構や作業ロープの結び方、幕の吊り方、ドラムのセティング、トラスの組み立て、吊り込み、山台の作製など)を学ぶ。コース選択後はコンサート舞台スタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、より詳しく役割や仕事の内容を理解し、実習ライブを通じて舞台進行やローディなどを実践してゆく。						
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	0%					
	小テスト	0%					
	レポート	10%	課題や、イベント後のレポートを評価する。				
	成果発表表 (口頭・実技)	20%	本番実習での協調性、積極性、理解度にて評価する。				
	平常点	70%	積極的な授業参加、協調性、授業態度によって評価する。				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	基礎実習①			舞台の仕事を理解し、舞台の機構、ロープの結び方、幕の吊り方を出来るようにする。			
2回	基礎実習②			舞台の一日の流れを理解し、作成資料を理解する。			
3回	基礎実習③			ローディーの仕事を理解し、楽器・ドラムの名称、Amp、ドラムのセティングを出来るようにする。			
4回	基礎実習④			トラスの組み立て方を理解し、安全に組み立て、吊り込みが出来るようにする。			
5回	基礎実習⑤			箱馬、平台を理解し、山台の作製が出来るようにする。			
6回	基礎実習グレード試験			[舞台] 箱馬、平台を使ってドラム台の作製が出来る。			
7回	基礎実習グレード試験			[PA] ケーブル巻が出来る。			
8回	基礎実習グレード試験			[照明] 吊り込み、回路取りが出来る。			
9回	コース別実習開始 基礎実習復習			基礎実習①～⑤の復習			
10回	タイムテーブル・進行表・立ち位置図面の作成 (手書き)			イベント①へ向けて、タイムテーブル、立ち位置図面、進行表の作成を出来るようにする。			
11回	道具図面の作成（手書きにて）			イベント①へ向けて、平面図、正面図、立面図を理解し、道具図面の作成を出来るようにする。			
12回	各セクションの流れを知る			イベント①へ向けて、他セクションの流れを理解することが出来る。			
13回	イントレの名称・組み方①			部品を理解し、安全に組み立てが出来るようにする。			
14回	イベント①（Voチャレンジ本番①）			イベント①へ向けて、タイムテーブル・進行表に沿って、進行出来るようにする。			
15回	イベント①（Voチャレンジ本番②）			イベント①へ向けて、タイムテーブル・進行表に沿って、進行出来るようにする。			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサートプロダクト 1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート企画コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	240時間
単位数	8単位	授業形態	実習		
教科書/教材	資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	村上 勝志		実務経験の有無・職種	有：プロデューサー、A&R、マネージャー	
学習目的					
イベント現場における企画スタッフとしてのスキルを身につける実習。基礎実習ローテーション期間ではすべてのコース(制作・企画・舞台・照明・PA)において最低限必要な制作の基礎知識を学ぶ。コース選択後は、イベントの企画を中心に宣伝、運営、本部など各セクションの仕事を理解しより実践的な実習を行う。学内イベント、片柳記念ホールでのイベント、外部会場での修了イベント等のイベント実習を通じてイベント企画に関連する基本的な業務内容を理解しイベント企画スタッフとしての能力を身につける。					
到達目標					
実習を通してイベント企画スタッフとしての業務の内容を理解する。また、イベント企画に必要な発想力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション力を高める事を目標とする。学内イベント、片柳記念ホールでのホールイベントや外部会場を使った修了イベントを通じてイベントの企画やブッキング、宣伝プランの作り方や、運営の方法、マーケティングを実践する事でイベント企画スタッフとしての基礎的なスキルとコミュニケーション力を身につけイベント企画スタッフとして自ら考え行動出来る能力を身につけることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	イベント企画スタッフとしての基礎的なスキルを身につける為に、イベント企画の役割や仕事を理解する。また、イベントを企画するために必要なアイディアの発想法や企画の立て方、プレゼンテーションなどをイベント実習を通じて学んでいく。また、イベントに関わる関連企業やタレント事務所について理解する。コンサートの実践実習に向けてコンサートの企画やタイムテーブルを理解しチームの編成と企画書を作成する。ライブハウス制作実習や片柳記念ホールでのホール実習や修了公演を通じて実践的な実習授業を行う。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	10%	グレードテストを定期的に行う		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	80%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基礎実習 ローテーション①		自己紹介、班の編成。企画とは何か、企画と制作の違いが理解できる		
2回	基礎実習 ローテーション②		班で発表しプレストとは何か、実際に個人でプレストを行い理解する		
3回	基礎実習 ローテーション③		企画書作成し、スタッフ構成について理解する		
4回	基礎実習 ローテーション④		企画書作成の続きを行い、プレゼンテーションについて理解する		
5回	基礎実習 ローテーション⑤		企画書を発表し理解する4		
6回	基礎実習グレード試験		照明実習（照明の配線と吊り込みができる）		
7回	基礎実習グレード試験		PA実習（ケーブル巻き・マイクスタンドの扱いができるようになる）		
8回	基礎実習グレード試験		舞台実習（平台・箱馬を使ってドラム台の製作ができる）		
9回	コース別実習開始 イベント企画の理解		イベント企画の役割や仕事の仕組みが理解できる		
10回	イベントプランナー		イベントプランナーの仕事が理解できる		
11回	企画書		企画書の作り方が理解できる		
12回	プレゼンテーション		プレゼンテーションの重要性について理解できる		
13回	学内イベント企画	制作準備	校内での企画イベントに向けてのプレスト		
14回	学内イベント企画	制作準備	校内での企画イベントの企画内容の決定、チーム編成		
15回	学内イベント企画	制作準備	校内での企画イベントの準備		